

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10590004				
授業名	生命科学と生命倫理 C	形態	講義	単位	2
担当教員	魚谷 雅広				
開講学期	2017年度 前学期	曜日・時限	月曜2限		
授業目的	生命倫理の諸問題を読み解く基本知識や基本原理を身につけ、自ら考える視点を養う。				
授業内容	現代の生命科学・医療をめぐる倫理的諸問題を具体的な事例から考察する。そしてその考察を通じて、生命の尊厳と生命尊重の精神を再確認するとともに、生命に関わる倫理原則について考察する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生命倫理学の成立過程とその学問対象について理解している。 ・生命倫理学において重視される基本原理を理解している。 ・生命科学・医療をめぐる倫理的諸問題に対し、事例を挙げながら具体的にその問題点を説明することができ、また自己の見解を持つことができる。 				
ディプロマポリシーとの関連性	<DP1-(4)> この科目を履修することで、人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を身につける。				
授業形態	基本的には講義形式であるが、適宜映像資料を用いたり、小レポートを用いた意見交換や授業の内容について簡単なディスカッションを行うなど、アクティブラーニングの手法を取り入れる。学生の主体性が発揮されるような具体的かつ双方向的な授業形態をめざす。				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。 合計15回の授業で、事前事後学習60時間となる。				
テキスト	小泉博明他編『テーマで読み解く 生命倫理』教育出版,2016				
評価方法	事前事後学習への取り組み、授業内レポート、試験により総合的に評価する。ただし受講態度に問題がある場合は、評価以前の問題として大きく減点する。積極的に学ぶ姿勢は大いに評価する。				
評価基準	事前事後学習・授業内レポート30点、試験70点				
試験・レポート等のフィードバック	授業で提出されたリアペムしくはレポートについては、次の授業回で講評・解説を行う。 また、14回目に授業内試験を実施し、15回目にその解説および授業のまとめを行う。				
注意事項及び履修条件	事前・事後学習を欠かさないこと。				

S : 100～90、A : 89～80、B : 79～70、C : 69～60、D : 60未満

第1回	
事前学習	「生命倫理」という言葉を聞いてイメージする事柄について、また、特に学びたい事柄について自分の考えをまとめてくる。
授業内容	オリエンテーション/生命倫理学とは何を扱う学問か 講義の目的、内容、到達目標を確認する。事前学習・事後学習の説明、講義の受け方、評価の仕方等、一連のオリエンテーションを行う。その後、米でbioethicsが成立してきた背景について理解するとともに、bioethicsが主に生命科学と医療の倫理的問題を対象とする学問へ形成されてきたことを学ぶ。
事後学習	テキストや配布資料を読み直し、重要な箇所には傍線を付しておくこと。また、不明な点は調べるなどしてノートを補足・整理しておくこと。さらに講義の内容に関する疑問をいくつか見出し、ノートに書き出しておくこと。
参考文献	村上喜良『基礎から学ぶ生命倫理学』勁草書房,2008 香川千晶『生命倫理の成立 人体実験・臓器移植・治療停止』勁草書房,2000

第2回	
事前学習	テキストの「ヒポクラテスの誓い」、「16 インフォームド・コンセント」、「18 医療倫理の四原則」を読み、傍線を引くなどして不明な点・疑問点を明らかにしておくこと。
授業内容	医療倫理の展開 『ヒポクラテスの誓い』の特徴を把握し、ピーチャムとチルドレスの『生命医学倫理』で展開される四原理との異同について理解する。特にパターナリズムからインフォームド・コンセントへの動きについて理解する。
事後学習	配布資料の事例について自分の考えをまとめる（指定用紙1枚）。
参考文献	トム.L.ピーチャム・ジェイムズ.F.チルドレス『生命医学倫理(第5版)』麗澤大学出版会,2009 R.フェイドン/T.ピーチャム『インフォームド・コンセント』みすず書房,1994 山崎章郎『病院で死ぬということ』文春文庫,1996

第3回	
事前学習	ALSという病気について調べ、ノートにまとめておくこと。
授業内容	告知・自己決定の難しさ 前回の事後学習について検討する。 その後、ビデオを視聴し、告知の難しさやICのあり方、また「自己決定」の難しさについて理解を深める。
事後学習	ビデオ「難病告知」を視聴して感じたこと・考えたことをレポートにまとめる（指定用紙1枚）。
参考文献	小松美彦『自己決定権は幻想である』洋泉社,2004
第4回	
事前学習	テキスト「14 安楽死と尊厳死」、「15 終末期医療」を読み、傍線を引くなどして不明な点・疑問点を明らかにしておくこと。
授業内容	安楽死と尊厳死(1) 安楽死をめぐるいくつかの事件を参照しながら、慈悲殺・安楽死・尊厳死などの概念理解を目指す。 また安楽死をめぐる事件の背景には、医療従事者と患者の立場の違いや生命の尊厳(SOL)と生命の質(QOL)という理念の対立があることを理解する。
事後学習	ビデオを視聴して感じたこと・考えたことをレポートにまとめる（指定用紙1枚）。
参考文献	香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー掲書,2009
第5回	
事前学習	安楽死や尊厳死、終末期医療をめぐる最近のニュースについて調べ、印刷して持参すること。
授業内容	安楽死と尊厳死(2) 現在では、積極的安楽死よりも終末期医療における延命治療の中止等が問題となっている現状について理解する。さらに、尊厳死の法制化をめぐる問題について、諸外国と比較しながら考察する。
事後学習	ビデオを視聴して感じたこと・考えたことをレポートにまとめる（指定用紙1枚）。
参考文献	日本尊厳死協会HP http://www.songenshi-kyokai.com 安楽死・尊厳死法制化を阻止する会HP http://soshisuru.fc2web.com
第6回	
事前学習	テキスト「11 脳死と臓器移植」を読み、傍線を引くなどして不明な点・疑問点を明らかにしておくこと。また、(社)日本臓器移植ネットワークのHPを訪問し、「臓器移植解説集」の「臓器提供について>臓器提供とは?」を印刷して読んでおくこと。また、この回の授業資料とするので持参すること。
授業内容	脳死・臓器移植(1) 「人の死」と「脳死」の違いについて、医学的・生物学的観点を中心に理解する。また、心停止後の移植、脳死下の移植、生体移植などの相違を押さえつつ日本における臓器移植の現状について概観する。
事後学習	ビデオを視聴して感じたこと・考えたことをレポートにまとめる（指定用紙1枚）。 (社)日本臓器移植ネットワークのHPを訪問し、「臓器移植解説集」の「脳の役割」から「脳死判定」までを読み、脳死および脳死判定について復習すること。ページは印刷してこの回の授業資料として保存しておくこと。
参考文献	(社)日本臓器移植ネットワークHP http://www.jotnw.or.jp/index.html
第7回	
事前学習	(社)日本臓器移植ネットワークのHPを訪問し、「臓器移植解説集」の「脳死での提供と心停止後の提供」「脳死移植の流れ」「意思と提供までの流れ」を読んでおくこと。また、この回の授業資料とするので持参すること。
授業内容	脳死・臓器移植(2) 現行法制下における脳死・臓器移植の流れを理解するとともに、脳死・臓器移植の是非をめぐる指摘される問題点について把握する。また、今後の脳死・臓器移植のあり方について考察する。
事後学習	自分はどうような臓器提供を行うか(または行わないか)について、その理由とともに自分の考えをまとめる（指定用紙1枚）。
参考文献	小松美彦『脳死・臓器移植の本当の話』PHP新書,2004 柳田邦男『犠牲—わが息子・脳死の11日—』文春文庫,1999 (社)日本臓器移植ネットワークHP http://www.jotnw.or.jp/index.html
第8回	
事前学習	前回配布した資料を読み、受精から生命誕生までの道のりについて学んでおくこと。
授業内容	いのちの誕生 ビデオを視聴しながら受精から誕生までの道のり、また「親」になるまでの道のりについて学ぶこと

	で、生命の神秘や尊厳についての理解を深める。
事後学習	ビデオ「驚異の小宇宙人体」および「うまれるということ」を視聴して感じたこと・考えたことをレポートにまとめる（指定用紙1枚）。
参考文献	NHKスペシャル 驚異の小宇宙 人体 Vol.1「生命誕生」[DVD] うまれる：いのちの授業：学校教材用DVD 小さな生命の詩(いのちのうた)/LIFE BEFORE LIFE スペシャル・エディション [DVD]
第9回	
事前学習	昨今の人工妊娠中絶件数について調べたうえで、人工妊娠中絶について自分がどのように考えるかノートにまとめてくること。
授業内容	人工妊娠中絶および不妊をめぐる問題 わが国の人工妊娠中絶をめぐる現状や問題点について学ぶ。さらに、死産や不妊などについて学ぶことで、あらためて生命が誕生することについて考える。
事後学習	ビデオ「うまれるということ」(死産・不妊)を視聴して感じたこと・考えたことをレポートにまとめる（指定用紙1枚）。
参考文献	『バイオエシックスの基礎～欧米の「生命倫理」論』東海大学出版会,1988
第10回	
事前学習	テキスト「5 生殖補助技術」、「6 出生前診断・着床前診断」、「12 人体の資源化・商品化」、「13 再生医療」を読み、傍線を引くなどして不明な点・疑問点を明らかにしておくこと。
授業内容	生殖技術の展開とその問題 人工授精(AIH,AID)、体外受精・胚移植、代理出産、出生前診断など、主要な生殖技術の現状について理解し、具体的な事例の考察を通じて、これらの技術が生み出す倫理的問題について考察する。
事後学習	新型出生前診断についてどう考えるか自分の考えをまとめる（指定用紙1枚）。
参考文献	香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー掲書,2009
第11回	
事前学習	テキスト「1 遺伝子・DNA・ゲノム」、「2 バイオテクノロジー」、「3 ヒトゲノム」を読み、傍線を引くなどして不明な点・疑問点を明らかにしておくこと。
授業内容	遺伝子技術と優生学的問題(1) 遺伝に関する基本的事項について理解する。また、遺伝子操作の技術やその倫理的問題について理解する。
事後学習	遺伝子操作など、生命の改変はどこまで認められるべきかについて自分の考えをまとめる（指定用紙1枚）。
参考文献	香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー掲書,2009 米本昌平他『優生学と人間社会—生命科学の世紀はどこへ向かうのか』講談社,2000
第12回	
事前学習	テキスト「7 優生思想」を読み、傍線を引くなどして不明な点・疑問点を明らかにしておくこと。また、ダーウィンの進化論、および社会ダーウィニズムについて調べ、ノートにまとめておくこと。
授業内容	遺伝子技術と優生学的問題(2) ビデオを視聴し、優生学や社会ダーウィニズムが生みだした悲劇について知る。更に「内なる優生思想」という考え方について理解する。
事後学習	ビデオ「人間改良を目指した男たち」を視聴して感じたこと・考えたことをレポートにまとめる（指定用紙2枚以内）。
参考文献	香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー掲書,2009 米本昌平他『優生学と人間社会—生命科学の世紀はどこへ向かうのか』講談社,2000
第13回	
事前学習	これまでの講義内容について、不明な点・疑問点などを明らかにしておくこと。
授業内容	これまでの講義を振り返るとともに、授業では扱いきれなかった倫理的諸問題をめぐるテーマについて補足する。
事後学習	これまでの講義の要点を理解するとともに、不明な点については調べ、ノートにまとめておくこと。
参考文献	香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー掲書,2009 米本昌平他『優生学と人間社会—生命科学の世紀はどこへ向かうのか』講談社,2000
第14回	
事前学習	授業内試験に向けた準備を行う。
授業内容	授業内試験を行う。
事後学習	試験内容を振り返り、ポイントや疑問点を整理して、自分の言葉でノートにまとめておくこと。

参考文献	
第15回	
事前学習	授業全体を通じて学んだこと・授業を終えて疑問に思うこと・関心をもったことなど、授業の振り返りを自分の言葉でノートにまとめる。
授業内容	授業全体のまとめ 授業内試験の解説とともに授業の総括を行う。
事後学習	授業目的や到達目標に照らして自己の学修を振り返り、向上した点や残された課題について文章にまとめる。
参考文献	

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p><DP-1> 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。</p> <p><DP1-（1）> 日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p><DP1-（2）> 情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。</p> <p><DP1-（3）> 問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に付けている。</p> <p><DP1-（4）> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。</p>
-----------	--